

A0104-01	間違い易いバルブは誤操作防止の対策を実施せよ		
本文	近くに形状が似ているようなバルブがある場合は、誤操作を防止する対策を講じること。		
リスクの種類	漏洩、設備内の危険な混合、汚染など	関連目次・章節	
理由(何故)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス内のバルブは多数あり、また同じ形状のものが多いため、間違えて操作する可能性は高い。 ・バルブやコックのレバーが配管中心線と平行(垂直)であることと、弁の開閉状態とが常に一定であるとは限らない。(開閉指示装置の組立違いや垂直配管取付の場合の落下物による誤作動防止目的など) したがって、思い込みにより開閉状態を間違える可能性がある。 		
方策	<ol style="list-style-type: none"> 1) サイズが近く形状が似ているバルブは、取付位置を離したり、形状を変えたり、色を変える等、見分けやすいようにすること。 2) 不要配管の撤去など、配管系を単純化して、識別し易くすること。 3) 表示を明確にし、操作時は指差呼称する。 例:バルブ(コック)のレバーの向きと開閉状態の関連を明確にすべく表示する。 4) 作業前に位置の確認や操作するバルブに印をつける。開閉を明示する開度指示板を取り付ける。などミスをする確率を下げること。 5) 操作内容は具体的に注意するように指示説明すること。 6) 操作厳禁のバルブ、最重要バルブは封印、施錠をすること。 		
事故例	<p>濃縮缶からドラムにトルエン洗浄液を抜き取る作業で、ドラム交換の際ストップ弁の下流のカップリングではなく、上流のカップリングを外したため、トルエン 200L が漏出した。両カップリングの位置は近く、形状も似ていた。(負傷者 1)</p> <p>(1998.7 化学工場 和歌山県) (JST 失敗知識データベース)</p>		
法的参考事項	高圧ガス保安法・一般則第6条第1項第41号(バルブ等の操作に係わる措置)		
備考			